代表質問

二ノ宮 健治
（由布市）

農林水産業と商工業の併進と県農業非常事態宣言・行動宣言の進捗状況について

県の農業産出額は九州最下位、工業生産高は第2位。50年前の「農工併進」は、新産都を誘致し働く場を確保するなど工業の振興に取り組んだ。今回は、当時とは正反対の、工業に比して大きく落ち込んだ農業の引き上げ。

このままの農政では、10年先に農林漁村は壊滅的になると考える。県政のバランスある発展のための「農工併進」の取り組み。合わせて、県農業非常事態宣言・行動宣言の進捗状況についても伺う。

【知事答弁】

行動宣言に基づき、キャトルステイションの整備などを実施してきた。しかし人口減少や気候変動、食料安全保障上の懸念などから、食料・農業・農村基本法の改正など農業情勢は大きく変化。

これを踏まえた、新たな農林水産業振興計画を策定。また、「農業成長産業化推進本部」を市町村ごとに立ち上げ、県農業を成長産業として発展させたい。

企業誘致について

県の企業誘致数は年々増加しているが、大分市や県北・国東地域への企業集積が進み、地域的なバランスが課題となっている。特に、農村部への誘致は、働く場が近くにできることにより農業との兼業も可能となり過疎対策にもつながる。このためには、企業が求める適地の掘り起こしや市町村による新たな産業団地整備に対する支援強化は欠かせない。県の見解を伺う。

【商工観光労働部長答弁】

昨年度は市町村合併後で最多の16市町村で企業誘致が実現したが、受け皿となる用地の不足が大きな課題となっている。昨年、県全域を調査して各自治体が計83か所・1102ヘクタールの候補地を選んだ。本年度拡充した用地整備の補助金などで市町村を後押ししていく。

地域の高校について

定員割れが続く県立高校が増え、少子化等もあるが「普通科全県一通学区制度」も一因であると考える。未来創生ビジョンでは策定後5年を目途に見直しが予定されているが、県民クラブでは、これからの高校教育のあり方を考える専門部会を立ち上げ、遠隔授業、全国募集、地元自治体の支援などの先行事例を学び提案をしている。普通科全県一通学区制度や高校再編等の検証、地域の高校の存続の方策について伺う。

【教育長答弁】

全県一通学区制度については評価もあるが、定員割れ等を心配する声も承知している。地域の高校が選ばれる学校づくりは喫緊の課題であり、検証委員会を立ち上げ検証を行い、地域の高校の存在価値を高める取り組みや遠隔教育の導入など、魅力ある学校づくりに全力を傾注していく。

一般質問

成迫 健児
（佐伯市）

今回の一般質問では大きく分けて5つの項目について取り上げました

①南海トラフ地震に向けた防災対策について

南海トラフ地震が発生すれば、瓦礫や津波で運ばれる土砂の発生量が、最大で約3億4900万トンと東日本大震災の実に約11倍にも上り、こうした災害廃棄物を既存施設のみで処理する場合には、最長で20年もの年月を要するとの推計が、環境省からは発表されている。地震で発生した膨大な災害廃棄物が放置されれば、救助・救援の妨げになると考えられることから、迅速な処理は欠かせない。実際に、今回の能登半島地震においても、今後、災害廃棄物の処理が大きな問題となり、復旧・復興にも多大な影響を及ぼすことが危惧されている。そこで、災害廃棄物の仮置場の確保や迅速な処理に向けた計画の策定などについて、南海トラフ地震に向けた防災対策にどのように取り組んでいくのか知事に伺う。

【知事答弁】

事前準備の要となる災害廃棄物仮置場については、県全体の確保目標111haに対し、約3倍の364haを候補地として選定しており、このうち佐伯市では目標の1.8倍にあたる82haを選定済としている。加えて、仮置場からの運搬、選別、処分までの実施手順を定めるとともに、企業・団体と協定を締結し、計画に基づく迅速な処理体制の構築も進めている。また、実効性の確保に向けては、市町村や関係団体を対象に初動対応に関するワークショップ等を開催するとともに、県総合防災訓練において、実際に廃棄物仮置場の設置や、運搬手順の確認を行うこととしている。

②アタマジラミ対策について

最近全国的に、こどもたちの間でアタマジラミの発生が増えてきていると言われている。シラミは不潔によるものと思われがちだが、清潔にしていても頭と頭の接触があれば寄生する場合があり、特に小学校や幼稚園では、遊びの中や集団でお昼寝をする際など、頭を接触する機会が多いため季節を問わず発生している。アタマジラミは、1年中流行がみられるが、6～7月の初夏と10～11月の秋に増加する傾向があり、一度アタマジラミに寄生されると、頭に卵を産んで住み続けるため対処が必要となる。アタマジラミを全滅させる治療は、すきぐしを使って除去する方法、また、殺虫効果のあるシャンプーで頭髪を洗浄して死滅させる方法の二つがあり、皮膚科でも同様の指導を受けるが、いずれも正しい知識がなければそのままになってしまい、アタマジラミが他人に寄生する範囲が広がっていく可能性がある。

そこで、県内におけるアタマジラミの発生状況をどのように把握しているのか、また、その対策にどのように取り組んでいくのか福祉保健部長に伺う。

※一般質問については、大分県議会のホームページの「県議会インターネット中継」のページの「録画中継」からご覧いただけます。